

~ 13
3112
4



思者清才所志者之四

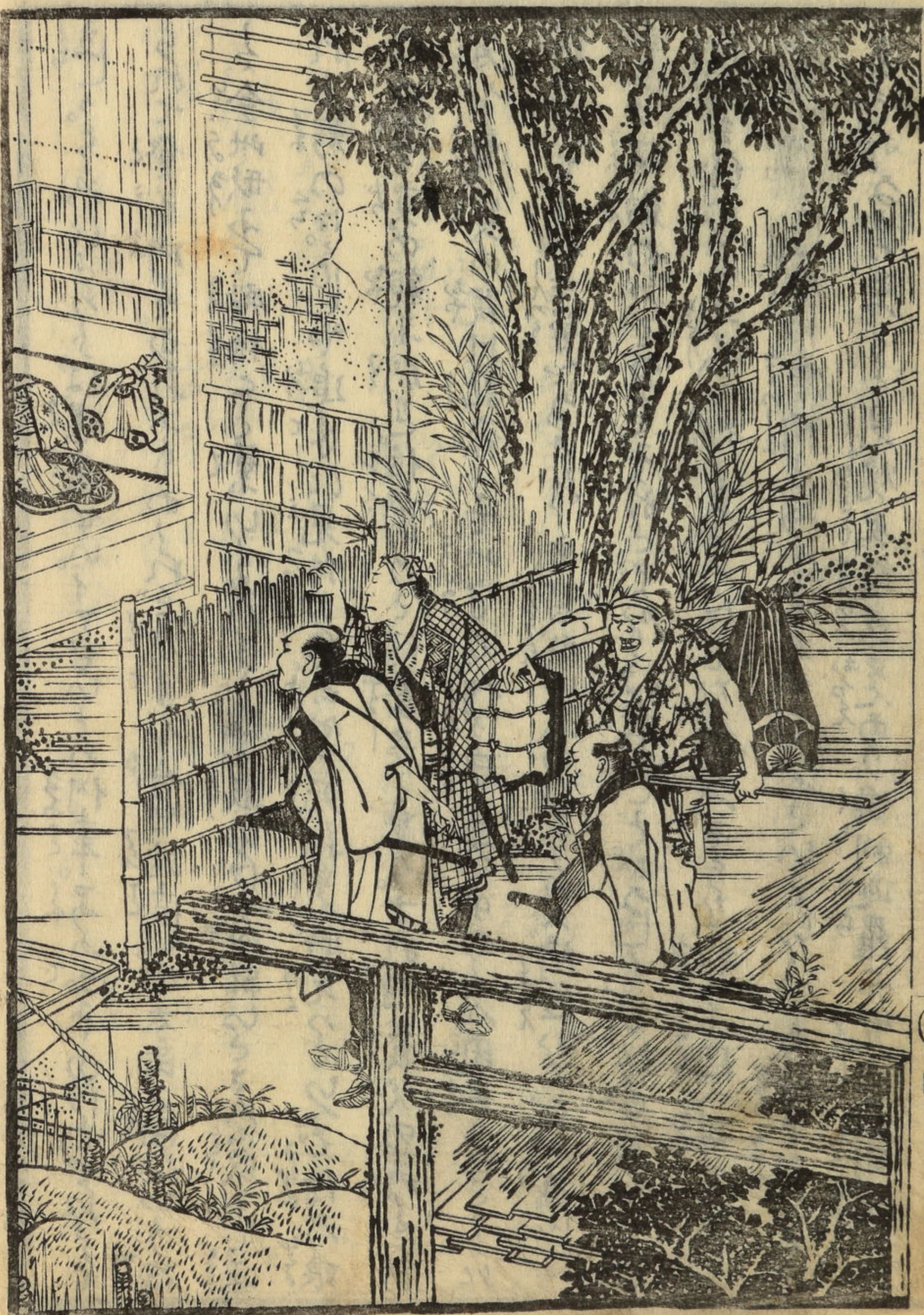
延引なれば浦屋が寂役のハズなれば遠ざりて今もや絶
しむ此現世の憂はもその憂はひして登皇門を後身清のかつこ
廓のつら内対の者ももどく海川へも身を沈めりさんとの子東の
小太郎も若氣の思慮なくわれ夜忍びて大儀の廓に連て退小余綾の磯
小實右衛門といふ漁師の常にわづ置一者なれば彼がりとにありやと
さんこと頼む實を請つ下はようは厚恩をいれ私なれと沖覽のちり終
られ身屋屋ししと海はしをありの浦川ふ念佛坊誓願とまうれ素門の
俗生とす五郎とて契情賣宿かりしが風といじするふり世の有るを悟
抱の柱女二十人むう年の内皆親えへ返はるし妻も金子を添離別身ハ
墨條の素門とあつて念佛一と味なり此人をたのまは死所もあれば月の土
ね間に磯をとま且んと直に船のせ帆を引ふ折れし追風吹く浦川の漆

お着やうて誓願が菴室にけひ右の夜身を流り頼とられ誓願とれをせて
けれ今此すがとあり上の浮世の人れ世話とぶれ標なれと命も捨んとあ
まの氣のを別先がきしい置異見のうと其上あはは松も有匠人を助も
出家の道と流石男達の生根をわじらそく友人を預りなれば実を請つと
ゆりね比の師をの事あて誓願の眠藏お友人を隠し金朝々と後とけり
いりりけれちや年も暮よまもなれば實を請つとまうく訪ふせ風説と知
らせとれ二月下旬深更おとよび菴あありてひそに中はよう浦屋あて
と旧きより因東助の勿論常陸のほ館して多助をりつと少少のりも知
ごごもや先沙汰とこれなれとら為今日鎌倉あて暮るとと為薩嶋の
れ家集流との辺の悪者どもを預り小太郎後を尋人知とぞ打殺しと
めりごと難説ながらあだんのまねばとがされふと誓願もこれをこそいれ

思者清才所志者之四

大俗の昔なりは忍れ小豆ねど。今も此身如何にせんといふ。小太郎も頼
 みおのし。兵藤大。かくわれ上の常陸の國へ入り。舟の安否を極せん去り
 踏次。つて振籍のふ。残念ありと有け。實を傳。夫れとて。船を用意いじ
 たり。海上。行。上。船の國へ。し。い。せ。と。さ。め。に。誓。願。も。こ。終。り。け。け。
 養。と。西。人。小。ら。ち。と。せ。と。あ。と。れ。を。此。後。の。大。恩。り。の。世。に。報。せ。ん。と。決。ま。り。
 以。て。津。み。也。美。川。の。海。も。船。を。あ。れ。の。名。残。を。こ。ぼ。し。と。實。を。傳。つ。頃。風。ま。つ。帆。
 を。上。暫。時。の。の。い。ご。小。木。更。津。と。い。ふ。所。に。着。是。より。陸。地。を。た。り。な。り。す。や。
 人。目。の。れ。に。互。ひ。小。船。を。い。ら。ぬ。目。の。持。派。を。餓。列。の。實。を。傳。つ。と。別。れ。る。い。い。
 や。支。人。と。行。踏。せ。れ。と。知。ら。れ。ば。な。ら。ず。常。陸。の。國。と。い。う。人。小。舟。も。よ。り。行。も。別。
 ぬ。旅。の。こ。ら。ま。さ。の。の。や。れ。馬。士。駕。舁。と。れ。を。入。て。酒。價。を。経。り。旅。泊。も。ま。こ。
 い。あ。よ。い。せ。と。用。意。ま。し。踏。浪。不。は。と。日。も。か。と。お。り。て。漸。々。と。下。船。の。國。香。取。

郡。佐。原。の。宿。を。行。き。て。河。東。洲。の。十。二。れ。橋。の。邊。に。一。夜。の。舍。を。り。と。ひ。れ。
 ぞ。も。か。と。入。る。ふ。夜。も。と。や。月。の。傾。く。ころ。香。取。の。浦。は。の。宮。と。い。ふ。所。へ。戻。り。曉。お。
 川。を。じ。ぬ。え。れ。ば。船。一。艘。は。る。と。て。あり。是。幸。ひ。の。も。は。く。れ。ぬ。今。宵。と。ま。つ。に。
 明。と。と。て。登。美。川。を。舟。と。も。か。の。船。一。夜。の。夢。を。ひ。と。び。り。此。所。は。房。長。の。
 茂。治。を。傳。と。い。ふ。者。年。八。十。に。の。り。り。けれ。も。か。ん。ち。や。造。り。け。る。親。ら。一。人。れ。
 娘。と。お。娘。と。い。ふ。器。量。十。人。小。勝。と。い。ふ。も。せ。れ。付。症。あ。て。年。八。十。五。は。成。々。れ。
 親。も。孝。行。は。し。て。物。の。よ。れ。人。よ。く。益。と。糸。を。り。機。織。織。こ。と。以。業。と。い。ふ。
 の。ご。と。朝。を。た。て。前。に。繫。ぎ。た。船。より。水。を。汲。ん。じ。り。る。速。内。より。船。
 を。指。は。し。仕。政。を。り。つ。て。教。ゆ。ら。に。茂。治。を。傳。も。ひ。よ。ら。ね。事。か。れ。ば。と。い。何。と。
 ぞ。と。船。も。行。て。え。れ。ば。あ。り。に。え。な。れ。ぬ。女。と。い。ふ。又。男。の。残。り。は。又。入。旅。再。度。と。
 され。体。も。て。枕。を。ま。り。げ。候。なる。が。女。と。人。懐。き。と。ま。と。や。ら。に。ま。り。は。ま。を。た。り。



何處不巢多於ところから。粵目不知れや。依て所詮おどろけ居られぬ身分と
 高と拵つて二月三月にては事。その後さびに膽魂のふとひ海山とて上総へ
 ころんと梅子のゆへのとよひかひて来て所田だてそれ此親らも代官所へはれて
 かつと競ひかつこのじとども茂治兵衛と落つと教此也。美川と我ホが娘
 なる今よりいそげば清の高の五百あふ附令二百あつじなとめれば只
 連退欠落といふでもは。又取らる所存あつ。二百あふの附令とて出て
 我任りそれよ。イヤ其令とてとるぐと。ハテ持ふのいよをの事。それとて
 登美川を此親かあがり。並く町人あつね貴人の事。出入の者へ並ひあつて
 二百あつじなとて出まらる。言が内小相渡さんと理の當前の一寸のがどは。即ち
 も是に返答も容易あへ成がど。庄屋宿老へ預け置。二日が内小金清取その物
 朱小對洗してとねく旅宿へ帰る。

諷

愚よこがれと啼蟬よりもまうね螢が身をあがと。

扱も茂治兵衛と。金子借用の多當りといしに偽り。所詮りめらぶ的おか
 盗されより外とほと。常陸の國王造といふと。信田の藏屋舗のめれ
 ば此寶藏へ刃ひ入金子盗まん物と思案をさらぬ。繫がじ。船の懸繩解と。
 帆を引のけて走り行。風もさあは。轡を押さ九二里半余の船路一時かほとね
 牛堀といふ所よ。船を寄にはる。是より五里の陸道かんと案内のかひて
 知れ奉られ。宵の月夜をきひよ。急ぐとそれど公ま。かくと知ふに二人と。
 翌日へ令とて。のへて身れとて。待らん首尾よく。洞のその上を何れ。余が惜じ。
 若捕られ大死するべ。お残りも離支者。乞食非人となりやせん。おのひ余とて
 道野辺の草に涙の露時雨。かりかりとそれハ軒高く。聲うらさ。屋形の有様
 このさふ。行はし。とまき。なり。え。内にも。や月も入られ。子故の闇ののやまも。

忍と云んとま寄りがあひひのせり廻とほと二腰はしと才の果がいう形に盗て
 捕られ生取うらにわらふは先祖へ對し不孝の罪只との傳ふ腹と云んぬま
 志に我死を跡の難義二人のものも生て居はしとやせんか中と案ある胸お
 ひく遠寺のハツの鐘時刻のびていいうごととどひよりて堀の際探りて廻を
 足がて上に見越の松枝とれ幸ひと打かけ用意の帆繩も老のよつた
 てもたぬくいうおせんかたちらふ所に因より松の枝おしつけ雲はくぬた大乃
 男刀おつと北叟頭中。小枝に手にあひつくと下れに懸猿猴の木付ふこと
 に茂治兵衛が肩踏はてしひつくと飛松とれ間に盗人も足附らばと又出
 と成れられよと押とら振とめせん又とらけ。現煙と好と引わくか
 づつと盗人様おのく待下されば此方も盗人なり。命取捨くまじり度
 事ゆりは分なぐハ首切もと刀の下に胸を居命惜りね有とあふ子細いふ

と盗人も後返ひつとびは居られ茂治兵衛も声取ひとる。夜も深更母なるが
 こ堀堀を掘く其姿を同ふ及がぬ盗人様いらがひへあれし。我ホ今宵始
 て盗人とおひはひられ返りては子あつて十五年以前にわね娘に廻り合
 断をらひにわねる遠くの大磯へ動ふ言ふと男があつて身請の言
 五百支と百支もけけの金液。跡合の出るれ故海山試て二人とも欠落
 じし追手の者には知られ一銭のたぐ之形。私が百支の令と日づらに淋
 と約束せぬわね二人が命はく。夫が可愛と不便に。しそ盗をれより計は
 と七里のよりれ此道を年寄といひつと所ありひがひにひ此のりとも今宵は仕
 合のよとて盗人様何とぞ私をす子かたされ令二百支も貸らこれよ
 類ひ盗人ふ金のと無心し者と世界に一人もあらずひけと詮いのち大的
 かけての事かんの替りに其えの命にらあめはいつ何討て此身も惜



金の女角のつらね。二人とも生きて居れば。良きことと云れよ。
あつて手にけ殺さくたぐと狂氣のぶくは。た智恵も思案もな。活めよ。
来ぬ金の世の中とおひ知られて。あれな。婚後の標子盗人が何胸も
徹しけん刀納て。側ちかく寄命。捨て今子の安心より。せらるいこともど
めん子細あつて。我も今宵の出来どう盗取られ。此令の數を如何ぼら
紙も。身にはまされ。其方が言葉察入る。是れ當分らけせいと渡さ
きとも恨不百あ。らん有がどし。夢あめ。びやとほびい。くその内も俄お
さる。金袋の移動。さうさう。間もめ。じ吹濱。辺もちかく。白浪。を行流も
あ。び。なり。に。り。茂治。兵。清。の。跡。あ。お。ぐ。み。佛。々。有。が。や。と。入。れ。その。え
多。お。ら。る。る。卷。く。懐。は。ほ。び。い。み。行。向。之。の。り。と。ら。わ。く。高。提。灯。は。る。
所。も。あ。ら。か。は。し。や。大。勢。ひ。と。連。牛。堀。軍。六。を。道。と。な。と。下。知。り。も。あ。ら。さ

またのや。れ。中。改。え。んと。ま。か。れ。は。ち。ん。と。も。ん。と。を。ま。づ。め。この。近。辺。の。百。性
な。れ。か。と。急。病人。の。あ。れ。よ。より。医。者。は。遠。ひ。お。ま。る。者。と。口。あ。ら。い。ど。と。あ。ら。ま
ら。る。後。足。も。わ。き。く。う。ひ。声。お。軍。六。と。ら。を。つ。け。何。あ。も。せ。よ。怪。さ。中。改。え
よ。こ。声。の。下。取。付。下。終。を。は。き。と。ら。と。拍。子。お。落。し。小。判。の。包。と。れ。と。か。け
ご。急。又。大。勢。と。ら。か。れ。ば。一。世。の。際。年。ハ。あ。て。も。以。前。ハ。武。士。と。な。せん。と
と。働。け。と。心。も。後。と。息。も。切。と。ら。と。所。を。打。あ。せ。と。は。あ。不。繩。を。そ。か。け
と。と。と。た。軍。六。と。大。ま。に。ほ。び。この。旨。を。薩。嶋。へ。注。進。せ。んと。も。つ。ら。ら。た
是。悲。も。繼。目。ふ。成。治。を。續。く。我。身。の。上。より。我。子。の。身。を。あ。れ。れ。涙。落。れ
と。棧。の。袖。も。な。く。と。出。行。團。の。夜。よ。ら。ね。馬。も。声。と。か。め。ひ。く。と。あ
や。らん。め。つ。れ。と。し。あ。も。あ。れ。う。な。う。や

諷

楫をよくとれ船政衆は神崎森のした

下徳園神崎といふ所を木下より船路七里余往來の船着がらう故
小民家行をなぐ人種不繁昌と云々に尾滝甚内と云男平也も終小よ
と去れば縁のれ者の世結ふと。真壁より此所へ入る。子供の跡指
南よりして農民の交といふも。武士の果とて近所の者者ども。武術業術
の習古需おいらもかく教たれ。その比諸國徳のつらね。他國より入るる
博奕の俠者大服差を撰く人溢のれく者も皆甚内が手に挫付られて
親方くと云る敬をれ由志し。神崎甚内といふ稱々れとかや。かた悪
者と友と云はれも。誠を三日月丸の太刀が尋出さん。手段あり。一子甚内助
五才よりたれが此不ど瘡の病あり。醫療ははくせども。湯よか。ね。夫婦
の者。癩病よりひらけ。奥にひらけ。奥にひらけ。兄鉄平ハ。小太郎の行衆と云
小出が年々。及。達。云。は。妹の神崎。住と。す。す。訪。尋。れ。折。り。と。因。と

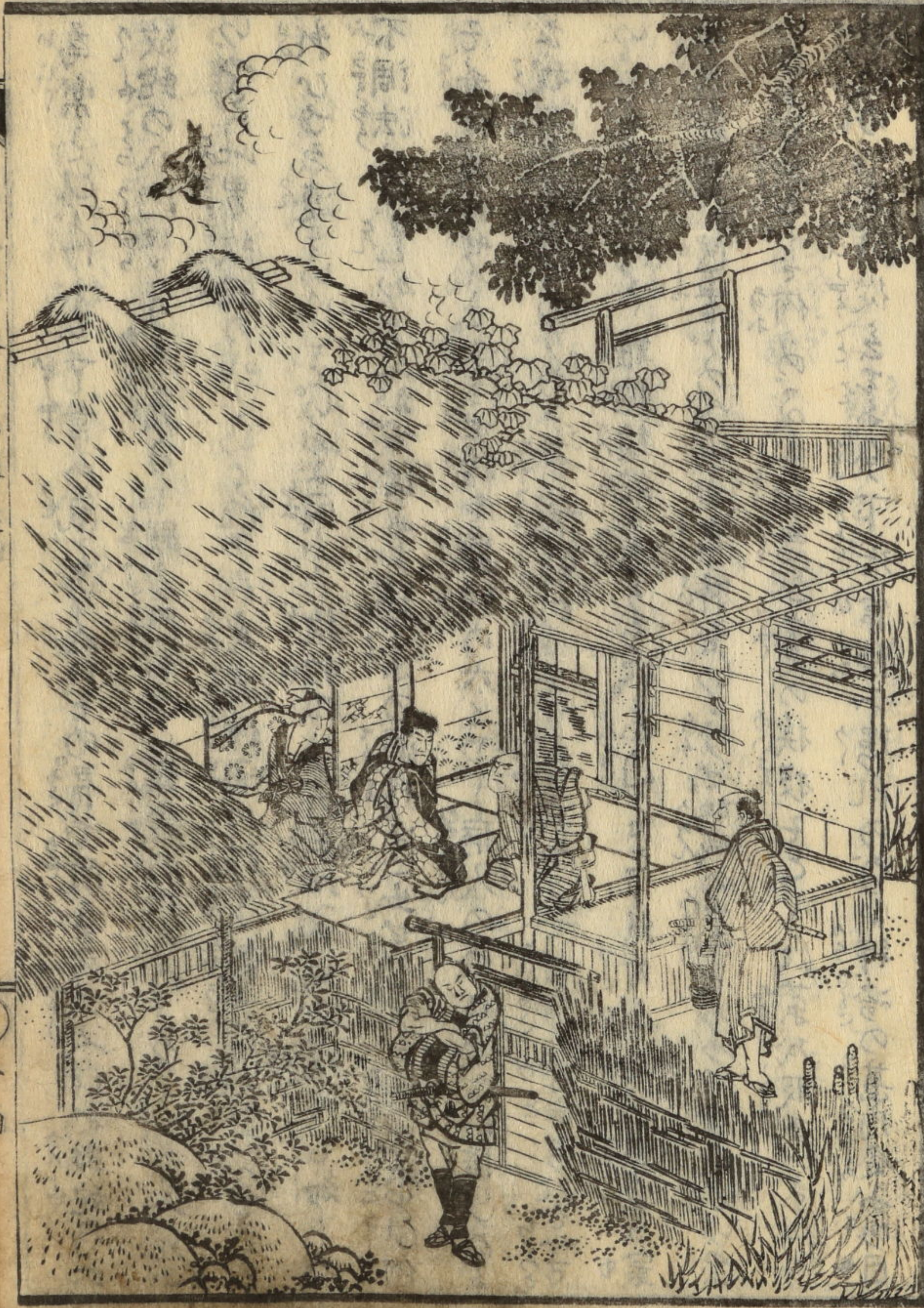
留守あくわりのしが。過じかこの物語して親平此の幼當ら。死目もわ
ざりし不孝を悔と。と。れ。あ。て。も。一。度。出。世。と。云。ひ。詫。ま。ら。と。と。と。お。り。い。と。と。後。
ら。う。ふ。い。せ。ざ。れ。残。念。と。よ。我。こ。の。信。田。の。家。長。原。嘉。膳。と。の。に。ち。と。の。内。
主人預り。金。貯。蓄。の。か。け。持。系。の。所。権。尾。の。山。道。と。て。飛。道。具。を。以。て。と。え。
を。害。し。か。の。掛。物。を。奪。ひ。逃。ゆ。く。と。せ。者。跡。より。追。及。一。人。と。谷。へ。踏。落。し。ゆ。ま。
一人の持たれを。と。り。ん。や。じ。と。引。合。拍。子。あ。や。ま。ら。く。谷。へ。取。落。し。飛。下。ん。お。
底。深。し。と。り。ん。と。す。れ。が。と。り。ん。を。一。刀。お。打。放。し。山。坂。越。し。谷。と。と。下。り。ま。
え。れ。の。と。り。い。う。と。踏。落。し。たり。獵。人。と。刀。疵。あ。の。ね。も。頭。割。と。て。死。骸。
の。そ。が。お。落。し。あり。し。の。此。金。唐。皮。の。火。打。袋。獵。人。げ。れ。が。持。た。れ。お。母。の。は。
お。と。や。何。者。に。う。棄。と。ら。し。と。お。り。人。も。取。入。と。手。段。と。は。外。お。一。つ。と。我。
て。に。残。る。密。書。の。半。分。見。も。當。名。の。知。れ。れ。を。夫。と。い。ひ。之。を。抛。ち。ま。る。た。

いごころ返りぬい況良雲八といふ其初より行方知れど此後さけぞ様と
ふかからぬ中り。山城強盗をさすことありき。まかり取捕と一詮議とありぬ所
小太郎様の浮行指され給へ浮嶋後の仰め。主人の兄元門へ内通あり
と是も浪人顔出しあふに残れぬ悪逆不道の中赤んねの彼ホが邪正と
せいでん。浮家の一大事とぞおんびん小太郎様。ゆづねやせよとの倍臣者
のかまし主人の仇を尋もなすに廻りてのあやむとゆれとらちとや殘念
中と拳取ゆり無念の浪年行と連ても隔り次弟審母お詰とれど
牙とらうをさし。衝のうらにも妹の只目おぼくの火打袋に夫が落世と云
あそゆり其時小持ゆりなれ箱の内兄の尋れぬおと。多ひもらせは換投
もや出もせど居りしが。鬼角のつとあしうりなんと。鉄平おしりぬれぬ
振おとく連と兄弟一夜も二夜も此方に留まらぬ苦かれども。こころは通

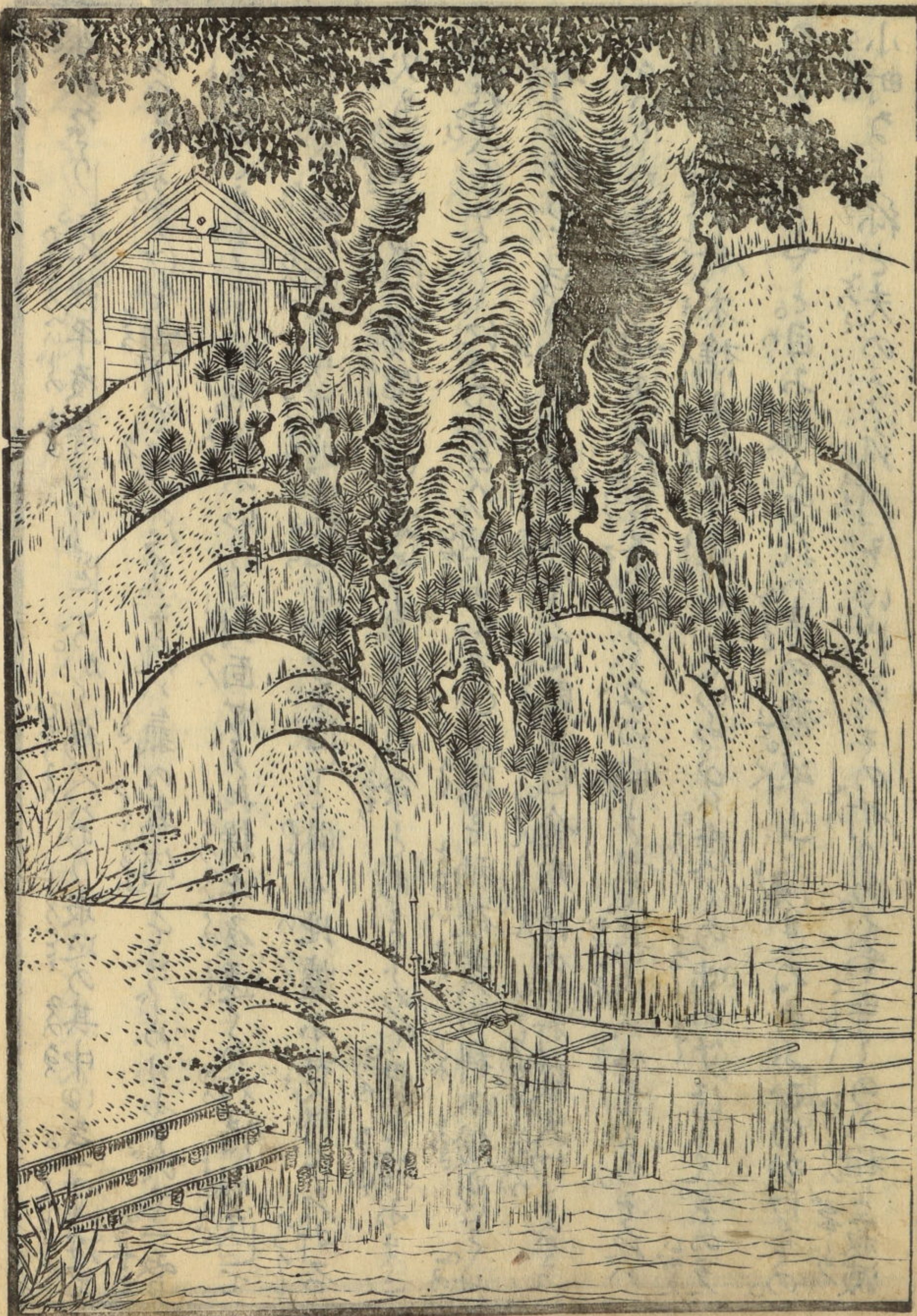
我子の大病。夫も晝夜の音病ふたまの御容を棘畧して。甚内屋の公
ぼひいさそぬぬえぬも氣の毒外へ宿より下されじと。愛相のなれ玄紫
とも耳あもかひぞをなり。此方もあつて迷惑よりおくら。子とせはこれ
甚内屋の對面とて何うのれか。なにも本意あふに。ゆ宅を待くその上を
外へ宿とる所存なり。氣ばうひととと兄の言葉妹とを中く掃さんゆのと。や
其義理をわかれ夫あはば。何にかくとまうに。兄のめれるゆらうおから。何
國小房のぞとらあが日中を尋られたこともおろ。第一小身持放埒大酒呑ん
喧嘩を好。女房子も著の候。盡自分と衣袂は綺羅を飴。女買つて
其上に女子とええアも仇はくぬ人か笑ふと。夫とええと。情氣あやれと。こ
なく。あふていとも。此子が可愛。年も五つふ成なれば。男の子を男おぼく
引渡して去伏とら。そもや添ふ言の微塵もな。と。やら。不問とめし。や。此

今の昔勞の上より、後もあつたか、中へ入る。見への
 不孝とさしひえしが、けむいあまされ夫の懺悔、對面とあつた物。さかへ
 るへとすしめあせ。さあねえとあり、いも悲中とらふ。鉄卒もろが居る
 ならば、門口へまゐられ、又本意を、やあひつん、妹を兄を、ひび、度。此後も打
 く、しつ、同おか、ねも人の命を、知れぬ、の、隨分、身を、大切、と。しつ、と、業
 人、漢より、教を、さし、け、つ、内よ、入、我、思、業を、外、な、れ、掛、物、夫が、所、持、が、定、る、か、ら
 ぶ、我、へ、兄、と、い、我、身、ひ、つ、つ、の、い、び、へ、自、害、と、い、り、外、は、し、と、え、悟、ら、れ、し、こ、ら
 の、ら、ら、見、い、それ、と、と、あ、れ、福、も、何、も、胸、よ、鉄、卒、と、不、審、な、か、ら、も、行、跡、を、小、新、よ
 忍、び、い、内、が、結、締、の、換、子、と、う、ね、振、と、の、ら、ね、体、小、因、よ、入、れ、妻、と、疾、を、押、か、し、只
 今、か、え、り、の、り、し、な、と、い、と、い、も、快、く、惡、寒、の、氣、も、な、れ、よ、う、先、極、よ、り、す、や、く
 寝、と、い、と、い、内、に、それ、の、重、重、と、當、主、の、内、誰、ど、ま、い、せ、や、それ、と、の、と、十、年、以

其のなかりし、兄、鉄、卒、を、尋、ま、し、て、見、し、が、病、人、の、あり、取、込、の、其、中、ゆ、一、寸、迄、で
 と、し、つ、世、に、つ、つ、を、斬、つ、て、ゆ、ら、り、それ、の、氣、の、毒、何、と、と、め、り、あ、げ、ば、一、音、
 も、還、ら、ず、と、ま、う、と、と、を、誅、し、し、ま、ご、對、面、せ、し、れ、鉄、卒、及、遠、く、行、き、し、疾、で、
 イ、ヤ、ク、余、社、の、間、を、り、又、近、く、内、よ、あ、つ、と、と、跡、を、地、爐、小、焚、け、け、れ、打、石
 の、火、も、電、や、ぶ、ハ、陽、焰、の、ゆ、え、を、も、ま、ね、命、と、あ、つ、め、て、露、の、浸、あ、ま、こ
 消、れ、火、を、さ、り、く、に、う、り、と、う、咽、ぶ、お、い、ひ、を、陽、を、袖、硫、黄、の、料、小、紛、ら、し、こ、此
 火、打、お、け、い、て、お、い、出、ま、は、御、主人、と、を、賜、了、し、金、唐、皮、の、火、打、袋、大、切、よ、う、れ
 る、が、い、か、なり、し、と、折、あ、れ、言、葉、と、く、ま、の、同、う、か、を、甚、内、の、せ、と、ら、ら、それ、の
 真、壁、小、徑、一、付、木、樵、を、行、く、落、せ、と、い、あ、の、度、の、吐、お、け、け、ん、の、見
 の、う、ら、れ、女、と、目、お、角、と、を、お、ハ、男、の、癖、返、し、て、同、目、お、あ、お、の、か、け、さ、の
 小、町、を、い、ね、と、夫、の、こ、ろ、内、ぞ、ゆ、り、し、た、その、折、ら、ら、や、寺、の、入、相、寂、滅



忠孝漢方府志卷之四



忠孝漢方府志卷之四

為樂とひびくも。サ常の風をかんその肩で風をた二人は難蛇乃六
 紋蛇の八門により遠ある。親方内あうと難蛇の六とつり込こりたお
 つら此男紋蛇の八といれさる友達仲間の改多。親方に引のせも
 頼ひ力を連まのし。いあ同く紋蛇の八の土地への始々何あも知れ
 不調法。の。是かかは世話めと。持糸の酒樽は出せ。是と近比希ひ何
 そ肴取よせん。主う世話を難蛇の六イヤ病入のあれ中お捕ひある
 な我ホう虫あどりのあ茶碗持のにより冷酒をうて親方へ下戸あれ一寸
 いさぐむろりほ難蛇紋蛇が吞らち。と内とこ後有今宵の煎火せホ最
 早あれさる医者ぶのくけさ容辨をいせ。加減の茶をうめてさよといふ
 いさくも女房と何あふの折思ひ客の挨拶そくは茶取おし行は
 紋蛇の八と追従え。今下総常陸小墾れのるい神湯の基内及小出目

ふりねとは合。い。は難蛇がこれハ下総常陸とらいついさう関八州も
 いふああよづ日本國ふとれ親方外あつた。イヤかあといへ十方
 もつらあやと津の宮れ芋七がらあは房長の茂治兵衛といふ親父が。
 玉造の中とて盗して捕られと其沢アケ。茂治を請りもえさふ葉の
 の家浪人してあまおれ対入。おが娘お妹聲に。そのいり
 聲あがとひ川。娘を養育十のとれ大抵の三浦五へ賣とといふ女郎の
 名と利根川とやら也。河とやら。たといは。胸は當りし
 こく家の端。シテそれ。又。い。親と。官を難蛇が圖に。あて。足か。う。あ
 が事。その契情。不。歴。の。客が。別。漆。封。の。客。と。支。引。で。五。百。あ。ふ。清。出。を。給
 米。が。百。あ。ふ。所。を。渡。跡。金。の。百。あ。ふ。と。鶴。崎。の。一。曲。と。か。あ。竹。質。は。入。れ
 とら。夫。が。待。伏。して。打。と。り。盗。と。り。さ。つ。が。あ。れ。よ。の。と。い。は。は。ら。ま。ら。

紋蛇の八胸ふらふらうり傍まで其一軸の盜賊のこの何なりと。知んぬ形も
 居ればハテしらふが脊途の無花果も痔の菜になれり。式百五成
 いらぶく河の盜人めが放そふぞや。とごぞに隠して有であれ。扱その客りな
 跡令がすまぬし女郎を連欠落とまされども。まてんのさうね居の乃株
 も出まごう。後付くあれく所縁といのれも不思議なり。茂治ま清の
 えつけく。親子の名ふたしてかきまめて居らうら。大磯うは尻がふれ。跡
 令の物も。しらす盗人と名ひはれ玉造の翁玉へ忍び込と。後先へ
 這入と盗人申。舟の上のく。斬と。毒心いふれむ。十方もまいかの盗人め
 が令百あられと。のさば。サアと。まてんは合のよや。やが。その怪小捕ら。と。
 言つた。盗人ふ落とげま。その上ふかの一軸と。中らも。おのれが盗人
 といふのと。あつと。四五日の内ふ。まの墓が。花よ。車。なんと不便。新でと

じんせぬうと鬼小候。唐犬の額小大汗。手拭の肩をかへ。物語を。さうやど
 ともと甚内が扱と。その夜の老人も。文之進あて。ありけれう。あはし。り。残念
 申。さ。後。の。覚。悟。と。う。い。つ。と。や。一。時。も。延。され。ど。と。あり。み。内。と。と。と。助。を。目。次
 さ。は。し。か。さ。は。へ。ど。と。と。下。や。と。又。も。瘡。の。大。熱。に。覆。ひ。られ。あ。み。泣。出。せ。ば。か。と
 今。そ。と。へ。薬。吞。ま。く。よ。ふ。せ。いと。い。だ。か。て。今。抱。を。解。所。母。見。捨。と。二人。の。者。と。の。扱
 におりかても。男の。痾。病。用。あ。た。な。ね。と。ふ。お。胸。と。ま。出。て。難。蛇。紋。蛇。か。う。ま。げ。れ
 叫。と。裏。の。木。部。玉。へ。忍。び。入。れ。

諷
 けい。と。お。り。人。と。羽。織。の。紐。よ。胸。小。お。り。ひ。を。結。び。ま。げ。

粵。て。甚。内。も。今。の。扱。子。か。と。か。は。あ。じ。も。待。ね。日。も。胸。も。開。く。夜
 小。わ。う。ア。と。人。た。て。ん。と。お。り。か。行。燈。小。二。筋。之。と。じ。燈。心。の。燃。れ。と。海。小。舟。の。油
 五。勝。を。絞。れ。む。かり。形。り。又。も。瘡。の。熱。出。く。と。と。へ。く。し。む。稚。子。に。せ。あ。り。



押摩手。今抱さればうとくと眠小そつと引廻そ。二枚屏風の蝶々あひ離とすい
 そと誓言けし夫婦も今宵別道とぞ。かごとさるめり。女房おの義理と情と捨
 我命。とへりながら。今日夫と我子に恩愛のら為ひう。門のは覗のあや
 るに其風情子細めんと戸は陰うかひ居るとも知られ。其内まで表のそ
 がみちめて。二腰とぞ。愛着のどひうられ。我子の顔うらなぐやく。云ん
 とそれとせう。あゝ涙と声に先づらて中ひせひ入居りし。我まぐら恥
 や。らふの今や。妻や子に。かくしとせし。身の懺悔推ら。はよあ。おほえ母お
 此沢。嘯して。父せよ。常くも父とあり。元某と。子葉の家臣尾瀧。其内中
 いし侍。うりじ。石部文之進。妹次。つと妻あり。いし。とれた文之近と。瀧言中
 仍浪人。一家。立退く。その初。五ツ。みなり。娘。次。連。あり。母の。か。た。この。ひ。さ。ら。
 ば。ひ。ゆく。も。足。多。ま。と。ひ。何。と。と。養。育。相。との。し。と。我。亦。預。く。ゆく。忠。ち。れ。と。

え。う。り。姪。の。こ。と。か。れ。と。不。便。お。かり。ひ。三。肩。う。ら。に。妻。と。病。死。それ。より。寡。れ。氣
 候。つ。ら。く。京。鎌。倉。の。在。番。の。ほ。り。で。め。の。遊。所。へ。か。う。ひ。大。酒。ふ。あ。り。果。の。結
 了。欠。落。して。預。り。れ。娘。を。賣。す。その。金。ま。と。も。失。ひ。て。諸。方。に。流。浪。の。内
 子。ま。の。家。の。三。日。月。丸。の。劍。紛。失。との。沙。汰。何。と。と。と。尋。せ。し。それ。を。功。身。の
 所。説。と。す。ひ。里。小。位。所。縁。か。ま。今。の。女。房。と。ら。か。ま。う。た。け。と。此。年。月。預。と
 か。あ。つ。と。其。上。に。子。の。煩。め。か。え。れ。お。つ。け。た。と。人。我。子。小。育。し。と。く。人。の。子。賣
 と。報。ひ。う。と。今。さら。悔。ひ。身。の。因果。との。ほど。大。磯。の。之。浦。を。より。宅。長。川。が。子
 清。の。客。と。百。両。の。の。附。次。渡。り。跡。今。の。二。百。両。と。淋。と。連。退。と。進。人。の
 者。の。断。ら。と。二。百。両。の。令。め。ら。ば。我。う。さ。より。す。は。し。と。男。に。連。添。せ。ほ。せん。の
 と。お。り。ひ。付。と。我。悪。念。玉。造。の。を。受。へ。あ。の。び。入。盗。と。う。と。れ。二。百。両。遊。り。が。漏
 の。針。と。れ。む。銭。と。老人。の。哀。と。に。委。細。の。その。語。似。合。一。奉。も。め。れ。物。と。身。再。引

くべて百あゝとつげ出しと別と。今日で隠し居るとは。其夜達し文之進
その令ゆゑお捕られ。命の際に成されと。又我子めて殺すも同前。則その夜の
盗賊と我ありと名をめて出命。又捨れがせめての言つけ。そのあつれね
ぞや。いづれ我子の大病余はよつと。死ゆく親の身と。六道四生の罪人
あも。おとり因果の我るれと。余所をともかれ。忍び泣子も恩愛のうら
声めて死よゆく。とんとも入行。とあそ。あねやうはして。と。り。持。び。も。後
我子い。煩ふて世話。あも。なり。中。ま。ひ。こ。し。ま。め。い。も。よ。う。あ。つ。と。い。ひ。あ。声。も。な。り
せら。し。れ。と。ん。せ。あ。い。の。と。利。は。な。と。お。り。ひ。り。せ。む。た。り。泪。と。と。り。て。女。房。う。り
と。泣。出。と。戸。の。外。と。の。け。て。え。我。つ。ま。と。あ。せ。り。と。と。が。甚。内。制。して。ら。う。え
の。人。か。ま。む。と。一。大。事。と。又。明。と。い。か。の。と。が。邪。魔。最。前。兄。鉄。平。の。と。ま。し。も。
封。面。小。ち。の。び。う。う。き。ん。や。く。此。あ。い。の。一。軸。も。信。田。の。家。の。寶。と。は。今。日。と。い。く

もあゝと。し。又。う。出。と。と。り。客。も。小。太。郎。と。の。と。ま。り。れ。ど。百。あ。の。令。み。り。文
布。あ。入。と。佛。檀。ま。の。け。置。む。兄。お。ま。に。し。と。跡。金。の。却。合。か。け。を。持。糸。と。て
文。之。進。が。命。が。な。と。り。令。子。盗。じ。も。我。あり。と。重。罪。ま。る。れ。か。く。倍。り。遺。と。て
と。これ。限。り。の。後。と。て。も。その。方。を。夫。を。持。と。隠。分。と。も。甚。之。助。が。月。よ。と。と。ま
ふ。お。ま。は。は。從。あ。る。と。い。ゆ。め。よ。て。の。如。と。い。ま。ふ。に。危。瘡。麻。疹。も。か。け。し。て。歳。より
利。は。と。り。あ。い。を。よ。う。と。う。ら。に。去。年。の。大。病。夜。も。日。を。寢。と。に。か。ん。び。や。り。して。
體。と。り。や。奇。應。丸。の。れ。と。め。い。れ。願。し。の。り。達。者。に。あ。り。し。ら。れ。や。と。よ。病
ら。が。間。も。あ。り。瘡。の。ま。ま。ひ。と。あ。ぞ。早。ふ。奉。服。せ。せ。の。霜。月。の。と。う。は。著。あ。い。を
派。お。ま。せ。と。行。つ。て。と。お。り。あ。と。甲。斐。も。な。り。や。親。を。名。に。の。か。盗。人。の。死。罪
あ。あ。い。者。の。子。が。祝。と。ら。落。り。恥。し。や。又。その。上。お。こ。と。夫。を。か。さ。わ。れ。ら。う。は
か。あ。あ。い。兄。鉄。平。の。と。ま。し。が。父。の。名。を。信。田。の。家。の。寶。と。は。前。の。と。ま。し。の。と。ら。あ

長澤朝太郎

七



捨れ身の是悟も。うつてかりつと夫の命。我理ゆゑすてねんせとせぬ。
 別とに一すと顔えせと。實も負女成板ふ。流して門の戸を押し女
 の一念力かけの折と。我身も斬る戸ののを。拍子に行能もあ
 のやみ。携らぶて基内が。ぼんばいあも。後このうち。一ッさんみかけいん。あど
 れの待てと取けくと。後もなれ物と我子に。氣もおれてまがり。はよう後
 後と輪廻のまづさのかへ。帯解て脊中も負て子より。基とら後の縁の
 下。這のがりなれ二人の悪の難陀紋蛇が。叫と合と。ごりまより佛檀乃賊
 布の令。まとはし顔と紋蛇の八だ。足技のーごらけく。簀子に氣の付らる。
 ろんふそれよ佛檀おと。あまじく探れ先と。まて。何れのとかい摺。
 賊市ややじとせり合と。鉄平も妹が。何り言葉の怪け。はと後
 びもある門に。内の持音何と。しあ声。妹と盗賊の入りなりと。

まげぬをけき道紋蛇の八邊おれ。まてはき。當れを。鉄平す。腕首摺。
 中。人のぶじと。あつその内地。埋火かき。お為が。てんふ。ぐとむ
 柴。燐とら。顔えありせ。おのれ。良雲八と。しあ。同も難陀が。桶の
 水。か。と。かられ。裏の戸。中。り。両人。し。く。も。ね。く。迹
 さんぬ。

忠孝潮來府志卷之四終

忠孝潮來府志卷之四終

忠孝陳來執志卷之四

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

